

群 教 セ	G02 - 02
	平25.251集
	小・社会

# 社会的事象に対する 児童の興味・関心を高める指導の工夫

— 課題をつかむ過程に地域の素材を取り入れて —

特別研修員 関 真克

## I 主題設定の理由

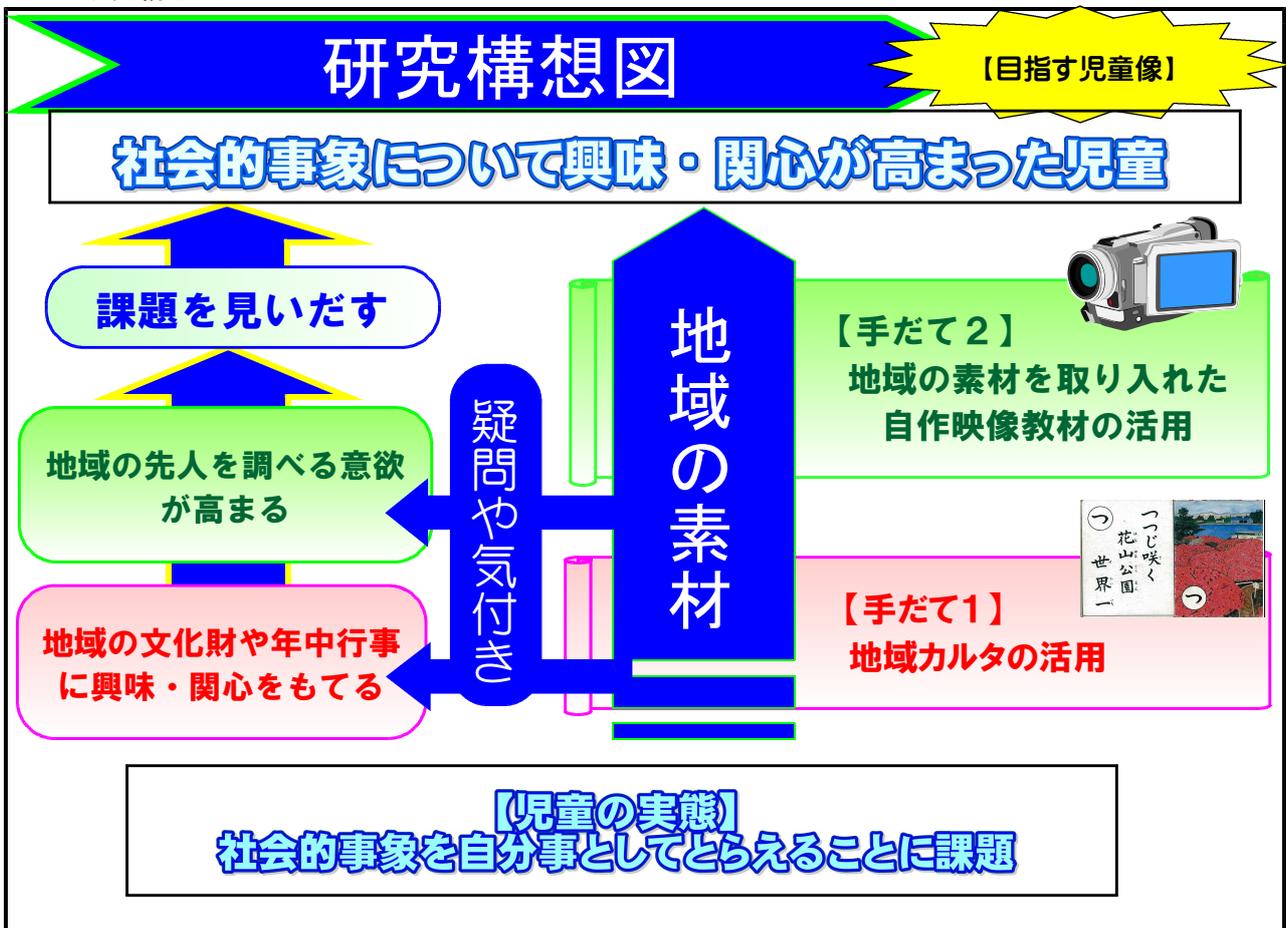
平成25年度群馬県学校教育の指針（解説編）には、「児童生徒が進んで課題を追究するためには、課題をつかむ過程において、学習の対象となる社会的事象について興味・関心を高めることが大切である」と示されている。そして、課題を見いだすポイントの一つとして、「課題設定する場面で、児童の疑問や気付きが課題につながるように調査活動や資料の提示を意図的に行っていくこと」が挙げられている。

本学級の児童は、与えられた課題について、調べたりまとめたりする経験を積んできた。しかし、児童の疑問や気付きが課題につながっていないため、社会的事象を自分事としてとらえることに課題が見られる。そこで、課題をつかむ過程において、地域の素材である「地域カルタ」や「地域の素材を取り入れた自作映像教材」を意図的に活用することで、児童の疑問や気付きが課題につながり社会的事象を自分事としてとらえることができ、社会的事象に対する児童の興味・関心が高まると考えた。

以上のことから、課題をつかむ過程に地域の素材を取り入れることで、社会的事象に対する興味・関心を高めることができると考え、本主題を設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手だて

実践1「昔から伝わるもの」(第4学年・2学期10月)において、課題をつかむ過程に「地域カルタ」を活用して、以下の点に留意した実践を試みた。

### 実践1における研究上の手だて

○地域の文化財や年中行事に興味・関心をもつために、「地域カルタ」を活用する。

実践1は、単元のつかむ過程において、地域の素材である館林かるたを取り入れることで、地域の文化財や年中行事について興味・関心をもち、理由を基に調べたいことを決めることができた。しかし、「地域カルタ」だけでは、児童の既有知識や経験を基に疑問や気付きをもち、実際の社会的事象から課題を見いだすことができず、興味・関心を高めるまでには至らなかった。

そこで、実践2「きょう土の発てんにつくした人 ～なるほど! そうだったのか! 大谷休泊～」(第4学年・2学期12月)では、次のように手だてを改善した。

### 実践2における研究上の手だて

○地域の先人を調べる意欲を高めるために、「地域の素材を取り入れた自作映像教材」を活用する。

実践2では、実践1の考察を踏まえ、単元のつかむ過程において、児童に疑問や気付きがもてるよう内容構成を工夫した自作映像教材を活用することで、課題を見いだすことができ、社会的事象を自分事として考え、地域の先人を調べる意欲を高めることができた。教師が、児童の実態を把握した上、課題を見いだすことのできる自作映像教材を活用したことで、疑問や気付きが課題につながり、社会的事象に対して興味・関心を高めることができた。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 「地域カルタ」を活用したことにより、地域の文化財や年中行事を絵札と読み札で容易に比較し、自分が調べたいことを決めることができたので、地域の文化財や年中行事に興味・関心をもつことができた。
- 教師が作成した「地域の素材を取り入れた自作映像教材」を活用したことにより、児童の実態に応じた内容を構成することができたので、地域の先人を調べる意欲を高めることができた。
- 児童の実態を把握した上で、課題をつかむ過程に地域の素材を取り入れたことにより、自分事として社会的事象をとらえられたので、社会的事象に対する興味・関心を高めることができた。

### 2 課題

- 「地域カルタ」を活用したことだけでは、児童が社会的事象について疑問や気付きをもち、課題を見いだすまでは至らなかった。
- 自作映像教材を活用するとともに、映像にかかわる調査活動などを取り入れる工夫をすることで、児童の興味・関心をさらに高めることができる。
- 社会的事象への興味・関心を一層高めるために、児童の実態に応じた地域の素材を準備する必要がある。

### 3 地域の素材のさらなる活用に向けて

- 児童の実態を把握し目指す児童像を明確化した上で、児童が疑問や気付きをもつとともに課題を見いだすことのできる地域の素材の活用法を考え、年間指導計画に位置付けていくことで社会的事象に対する興味・関心を高めることができる。

#### IV 実践及び改善の実際

##### 実践 1

##### 1 単元名 「昔から伝わるもの」(第4学年・2学期)

##### 2 本単元及び本時について

本単元は、地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事を調べ、自分たちが受け継いでいくためにできることを考えることが目標である。本時は全6時間計画の第1時にあたり、「地域カルタ(館林かるた)」を手がかりに、文化財や年中行事について調べる内容を決めることがねらいとなる。社会的事象についての興味・関心を高めるために、単元の課題をつかむ過程に地域の素材を取り入れ、授業を行ったところ、その概要は以下のとおりであった。

##### 3 授業の実際

まず、スクリーンに館林市観光キャラクター(以下「ぼんちゃん」図1)を投影し、どんなことに気付いたかを問いかけると、児童からは以下のように意見が出た。

- S1:「ぼんちゃんだ」
- S2:「たぬき」
- S3:「体が茶釜になっている」
- S4:「頭に花がのっている」
- S5:「花はつつじだね」

次に、なぜ「ぼんちゃん」に「たぬき」・「茶釜」・「つつじ」が使われるかを問いかけると、以下のような意見が出された。

- S5:「つつじは、花山公園と関係があるからかな」
- S2:「たぬきと茶釜は分福茶釜の茂林寺と関係があるからかな」



図1 ぼんちゃん

そこで、茂林寺と花山公園の写真を見て、本時の課題を確認した。その際、茂林寺と花山公園の写真を投影しながら、教師が現地に行ったときの様子を説明し茂林寺や花山公園は館林にとってどんなものなのかを考えられるようにした。そして、館林には多くの古いものが受け継がれていることをおさえることで、課題設定の方向付けをし、児童が興味・関心をもてるようにした。

また、昔から受け継がれているものを「たから物」とし、本時では、特に文化財や年中行事であることを確認した。

本時の課題を追究する過程では、「館林かるた」(図2)と「かるた一覧表」(図3)を基に自分が調べたい「たから物」を見付け、その理由も考えるようにした。

なお、児童が、疑問や気付きをもち、課題を見いだすことができるように、次のように工夫した。

- ・44枚の絵札のうち、人物に関する絵札を除いておき20枚にしておくことで、児童が「たから物」を見付けやすくなったこと。
  - ・読み札の内容のみを一覧にし、「かるた一覧表」として示し、児童が手に持つ絵札と比較しやすくなったこと。
- 以下は、その活動の様子である。



図2 「館林かるた」

- い 生き神と崇めてまつる秋元宮
- え 縁起よい初市だるまに人の群れ
- お 大谷原休泊堀の水ゆたか
- す 翠雲の絵筆あざやか格天井
- つ つつじ咲く花山公園世界一
- や 康政公ねむるお寺の善導寺
- ろ 老狐の恩返し照光築いた尾曳城

図3 「かるた一覧表」から抜粋

自分が調べたい文化財や年中行事を見付け、その理由も考える活動から興味・関心をもつ様子

T：「館林かるた」と「かるた一覧表」を基に自分が調べたい「たから物」を見付けましょう。  
その理由も考えましょう。

S1：（「館林かるた」の絵札を見ながら）尾曳城について調べてみよう。

T：なぜ、尾曳城について調べてみようと思ったのかな。

S2：尾曳城は、3年生の時の担任の先生の家  
に  
関係するからです。

T：なるほど。

では、理由をワークシートに書いておき  
ま  
しょう（図4）。

S3：（「館林かるた」の絵札を見ながら）ぼく  
は  
お父さんにだるま市に連れて行っても  
ら  
ったことがあるからだるま市について  
調  
べてみよう。

T：（決められない児童に対して）気に入っ  
た  
絵札はあるかな。

S4：（気に入った絵札を指さし）これです。

T：では、ワークシートに書いておきましょう。

たから物がいっぱい！  
どれを調べようかな。  
理由も書いてね。

ぼんちゃん

調べたい文化財	だるま市
理由	お父さんに連れていかれたから

え  
だるま市  
お父さんに連れていかれたから

図4 ワークシート

取組が早い児童には、多くの「たから物」を見付けるように  
助  
言し、意欲付けを図るためにワークシートに「調べ学習3級」  
「調べ学習2級」・・・の枠を設けた（図5）。

その後、自分が調べようと思ったことをペアになり確認し合  
い、学級で発表する際に自信をもてるようにした。

本時のまとめをする際は、本時を振り返り、感想（図6）を  
書  
くように指示し、数名の児童が発表することで、学級全体で  
本  
時の学習内容を振り返ることができるようにした。

理由

調べ学習3級

理由

調べ学習2級

図5 意欲付けを図る工夫

#### 4 考察

児童の『『ぼんちゃん』のデザインには、花山公園と茂林寺の  
文  
化財との関係がある』という発言があったことから本時の課  
題  
への方向付けができた。

また、「館林かるた」を活用したことにより、地域の文  
化  
財や年中行事を絵札と読み札で容易に比較し、自分が調  
べ  
たいことを決めることができたので、本時の振り返りでは、  
「調べるたから物が決められてよかったです」という  
児  
童の感想が見られた。これは、児童が文化財や年中行事  
に  
興味・関心をもっている姿だと考える。

しかし、文化財や年中行事を調べる理由を考える場面  
お  
いて、「館林かるた」と児童の既有知識と経験だけでは、

実際の社会的事象を自分事としてとらえることにつながらず、課題を見だし、興味・関心を高める  
ま  
ではには至らなかった。文化財や年中行事から児童が疑問や気付きをもち課題を見いだすことが  
で  
きるようにするために、文化財や年中行事を実際に見せたり、映像でとらえさせたりする工夫が  
必  
要であったと考える。

今日の学習感想を書こう

調べるたから物が決められてよかった  
です。

図6 本時を振り返った感想

## 実践 2

### 1 単元名 「きょう土の発てんにつくした人 ～なるほど！そうだったのか！大谷休泊～」(第4学年・2学期)

### 2 本単元及び本時について

本単元は、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えることができるようにするものである。本時は全6時間計画の第1時にあたり、単元の学習課題を設定する。具体的には、本校の学級農園で育てている稲と多々良沼とを関連付けることを通して、先人「大谷休泊」を認識し、大谷休泊の働きや苦心を調べるための意欲をもつことがねらいとなる。実践1の考察を基に、地域の素材から疑問や気付きをもち、地域の先人を調べる意欲を高め、自ら課題を見だし、社会的事象について興味・関心を高められるようにするため、授業を行った。その概要は以下のとおりであった。

### 3 授業の実際

導入において、本校の学級農園から作られた米を味わう行事である「カレー会食」の写真を提示した。そして、本時のねらいを「九小でカレー会食ができるわけを調べよう」とし、カレー会食について連想できることを問いかけると、「米」「九小農園」などの発言があった。この発言を受けて、九小農園で米づくりに使われている水はどこから来ているかを問うと、「渡良瀬川」「利根川」「矢場川」という反応が多かったので、地図で調べることにした。すると、「多々良川だ」という発言があった。そこで、多々良川の水はどこから来ているかを問うと「多々良沼」という反応が見られたので、本校から多々良沼までの水路のつながりを教師が撮影した自作映像教材で以下のように確認した(図7)。

#### 地域の素材を取り入れた自作映像教材を視聴し、気付きをもち興味・関心を高めていく様子

- T：(自作映像教材を観ながら)ここは九小農園です。  
この水は、どこから来ているでしょう。
- S1：(画面に用水路が映ると)用水路だ。
- T：では、この水はどこから来ているかな。追ってみよう。
- S2：えっ！先生が歩いたの？すごい。
- T：ここまで来たよ。どこだか分かるかな。
- S3：〇〇君の家の近くだ。そろそろ神社かな。
- S4：(画面に用水路のはじまりが映ると)こうなってるんだね。  
初めて見た。こんな川から水を引いているんだ。
- S5：この川が多々良川だね。
- T：そうだね。さっき、地図で確認したところ、多々良川の水は多々良沼から来ているんだよね。確認してみよう。
- S6：(多々良沼から多々良川に水が流出している様子がうつると)すごい！はじめて見た！こうなってるんだ！(図8)
- T：みんなが育てたお米と多々良沼にはこんな「つながり」があったんだね。
- S7：そうなんだ。はじめて知ったな。
- S8：多々良沼と九小に「つながり」があるとは、思わなかった。



図7 VTR視聴の様子



図8 多々良沼の様子

このように、児童は気付きをもち自作映像教材を視聴しており、自分達が育てた稲と多々良沼とのかかわりを明確にすることができた。

次に、多々良沼にかかわる業績を残した大谷休泊について疑問をもち、調べる意欲を高めるために、大谷休泊がかかわった用水路と松林を意図的にクローズアップした自作映像教材を視聴した。

地域の素材を取り入れた自作映像教材を視聴し、疑問をもち興味・関心を高めていく様子

- T：多々良沼周辺の様子を撮ってきました。何が写っているかを考えながらみてね。  
 S1：(画面を真剣にみて) 用水路だ (図9)。  
 S2：多々良沼から直接、用水路に水が流れているんだ。多々良川とは、様子が全然違う。  
 S3：いつごろ作られたのかな。  
 S4：さっき見たビデオは多々良川から水を取ってたけど、今度のビデオは多々良沼から直接水をとってるね。  
 T：(児童の反応を受けて) 多々良沼から直接取水をしている用水路だね。  
 S5：なぜ、ここに用水路が作られたのかな。  
 T：では、次の映像教材をみてね。  
 S6：(画面を真剣にみて) 木がたくさん植えてあるね。何の木だろう (図10)。  
 S7：松だよ。すごいたくさんあるな。  
 T：(児童の反応を受けて) そうだね。ここは、松林だよね。  
 S8：先生は、なぜ松林を撮影したのかな。  
 S9：用水路と松林は、何か関係があるのかな。



図9 用水路の映像



図10 松林の映像

その後、この用水路を作ったり松林を植えたりしたのは誰かを調べるために資料を配付した。児童は、その人物が大谷休泊であることを資料の情報から気付くことができた。そこで、「設定される課題の型」(図11)を基に「なぜ、用水路をつくったのだろう」「どのように松林を植えたのだろう」という単元を貫く学習課題を見いだすことができた(図12)。このことから、社会的事象への興味・関心の高まった。

- 〈設定される課題の型〉
- ① 事実を調べるための課題  
「どのように・どのような」型
  - ② 事象の意味に気付くための課題  
「なぜ・どうして」型

図11 設定される課題の型

4 考察

児童にとって最も身近な学校周辺地域の素材を取り入れた自作映像教材を活用したことで、学校農園と地域の沼とのつながりに気付いたり、その沼から取水する用水路や沼周辺に植林されている松林に対して疑問をもったりすることができた。そして、社会的事象を自分事としてとらえ、単元を貫く学習課題を設定することができ興味・関心を高めることができたと考える。

また、調べ学習をする場面では、「自分が見いだした課題を解決したい」という意欲をもった児童の様子が見られ、単元をつかむ過程で児童の興味・関心を高めることが、児童が資料から情報を収集する力、思考力や表現力の向上にもつながっていくと考える。

さらに、児童の興味・関心を高めるためには自作映像教材の他に、児童が疑問や気付きをもつとともに課題を見いだすことができる地域の素材の活用法を考え、場面を設定する必要があると考える。

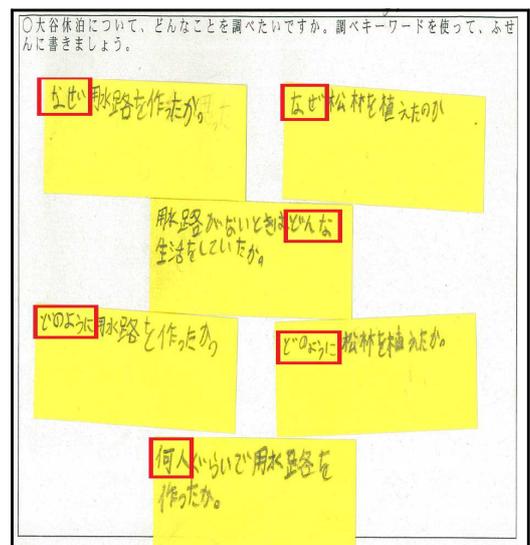


図12 児童が設定した学習課題